

学校関係者評価報告書

愛媛県立宇和高等学校
学校番号 (38)

評価実施日		令和6年2月16日(金)					
委員	氏名	所属等	備考	氏名	所属等	備考	
		岡山 泰之	西予警察署地域警備課長	学校評議員	荒井 栄二	八幡浜支局地域農業室西予農業指導班主幹	
		堀田 利知	ボーイスカウト県連盟理事	学校評議員	和氣宗一郎	西予市商工会青年部元部長	
		一井 健二	西予市役所生活福祉部長	学校評議員	富本 周作	西予市立宇和中学校教頭	
		山本 健二	地域在住者 前下宇和保育園長	学校評議員	三瀬 一也	宇和高校PTA副会長	
		上甲 成栄	学識経験者 学習塾講師	学校評議員			

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>1 今年度の最終評価について</p> <p>(1) 学校経営</p> <p>○校長のリーダーシップのもと、特色ある学校づくりや魅力化に取り組みされており、大変すばらしく感じている。今後も地域や保護者との連携を深めながら、魅力ある学校づくりに取り組んでもらいたい。</p> <p>○総合学科への改編を見据え、宇和高校ならではの特色ある学校づくり、生徒目線での教育活動が実践されていることを日々感じている。今後、受検生が定員を超えるような状況にしていくための方策に一丸となって取り組んでほしい。最終的には学校の知恵と工夫、地域の人材・資源の活用などの協力を得ながら、学校独自のカリキュラムで特色を出し、他校との差別化を図る必要がある。「逆襲の宇和高」として攻めに転じた取組で危機感を共有し、関係者で力を結集したいと思う。</p> <p>○魅力化コーディネーターのSNSをフォローしているが、様々な取組に感心しながら楽しく拝見している。活動内容がよく分かり、知人にも以前よりも積極的に、かつ、具体的に宇和高校のことを話せるようになった。また地域イベントの活躍等でSNSやメディアで宇和高生を見る機会が増えた。行政との連携も不可欠な状況なので、お互い知恵を出し合い協力体制で運営してもらいたい。</p> <p>○危機管理については、マニュアルの見直しにとどまらず、学校経営に支障がない範囲内で行政との連携、生徒参加型の体験型訓練の実施を推奨したい。</p> <p>(2) 学習指導</p> <p>○多様な生徒を受け入れている中で、ICTの活用や少人数指導の充実を図り、生徒の学力保障に努められているが、全体的に学習時間の不足と一人一台端末の活用不足が懸念される。予習・復習の定着で家庭学習時間の確保を図りたいところだと思うが、パソコン等を利用した予習・復習促進プログラムを展開してはどうか考える。</p> <p>○もともと学習習慣の未熟な生徒が多く、高校に入って急に勉強に積極的に取り組むことは少ないと思う。宇和高校の魅力が「詰め込み型」ではなく「生きる力」につながるものであることが、家庭学習時間の伸びに反映されたのではないかと。社会人へ近づく年代に対する内的動機付けに取り組む様々なプロジェクトが学習への動機付けにつながっているのではないかと。</p> <p>○年によって生徒の学力に差があるのは当然であり、個々の実力や可能性を伸ばすには、一斉授業では指導しきれないという現実に対応できるのが小規模校の強みである。保護者にもそういった実態を理解してもらう必要があると思う。</p> <p>(3) 生徒指導</p> <p>○「三つのする」を徹底する教育方針の積み重ねで、宇和高生の挨拶は町内でも定評がある。ただ、コロナ禍の影響が少し停滞気味の感じもする。折に触れ生徒を激励しながら良さを伸ばしてほしい。</p> <p>○校則の見直しについて、常時検討されているようで安心している。時世の流れ、生徒自ら守るきまりへと変化することが求められており、説明のつかない規則については、生徒と共に考え一掃する姿勢で対応してほしい。また、生徒自身による校則改定や市議会への関わりなど、社会における自分の役割を認識できる機会が得られる環境は、こういう教育活動の機会を増やしてほしい。</p>	<p>○南予地区の生徒数の減少は著しく、生徒・保護者・地域にとって魅力的な学校でなければ存続の危機は待たない状況である。魅力を高めていくための新たな取組に積極果敢に挑戦していきたい。</p> <p>○県立学校振興計画に基づき令和8年度から総合学科への改編を予定している。学科改編後の総合学科の姿については準備委員会で検討いただいており、令和5年度は総合学科の教育課程の編成に着手した。総合学科の改編によって宇和高校の魅力が高められるよう、探究学習を中心に地域人材や地域資源を積極的に活用するカリキュラムの充実を図っていききたい。</p> <p>○令和5年度は、魅力化コーディネーターによる魅力化プロジェクトを10回余り課外活動として実施した。令和6年度は魅力化コーディネーターや西予市等との協力体制を強化し、「総合的な探究の時間」など学習活動としての実施に向けて検討したい。</p> <p>○生徒の安全を守るため、関係機関からのアドバイスに基づきマニュアルを作り周知したいと考えている。また、生徒の避難訓練時の対応や態度は良好であるが、前回と異なる状況での避難には戸惑う場面も見られたため、改善していきたい。</p> <p>○引き続き、教職員のスキルアップを図っているところであるが、一人一台端末を活用した家庭学習での予習・復習の内容や課題の出し方等、各教科で検討し、努めていきたい。</p> <p>○総合的な探究の時間等を通して、主体的・創造的・協同的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようすることに努め、進路実現や今後の生活に大切な学習の必要性を自覚させたい。</p> <p>○HR担任と教科担任、HR担任と保護者との連携をより一層密にし、生徒一人一人の個人理解を深め、学習意欲を高める工夫をすることによって、今後も、生徒がよりよい学校生活を送ることができるよう努めていきたい。</p> <p>○地域に愛される高校であり続けるため、地域との触れ合いの中で多様性を認め、挨拶を通じて、よりよい人間関係が作れる能力を育成していきたい。</p> <p>○今後も生徒が主体となり、学校生活が充実するような校則の見直しを検討していきたい。また、積極的に地域の行事に参加させるなど地域における自分の役割を認識し、地域に貢献する態度を身に付けることができるよう指導していきたい。</p>

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>○生徒の皆勤率が低くなっていることが気になる。コロナ禍で無理をさせない指導を行ってきた結果と捉えているとあるが、生徒によっては気の緩みにつながっている場合もあると考えられる。今まで以上に生徒一人一人に目を向けて指導していただきたい。</p> <p>○まだまだ反抗期の生徒もおり、叱らなければならない場面は多いと思うが、ハラスメントなどと訴えられる理不尽さに教員の大変さを痛感する。体罰は許されませんが、叱るべき場面は叱る指導をお願いしたい。</p> <p>(4) 進路指導</p> <p>○全校体制での進路実現に向けた取組が好結果を生みだしていると思う。生物工学科から2名の国公立大学合格者が出たことは特筆すべきことである。宇和高校で基礎力を高め自己探求と表現力の結実として進路が実現していることを、中学校の生徒・教員、地域住民にアピールしてほしい。</p> <p>○就職については、県内・地元での定住につながり、地域の担い手としての人材確保に貢献していると思う。</p> <p>○高校の魅力化のためにも、学力保障と共に進学・就職率の維持・向上は欠かせない。宇和高校に進学すれば希望進路が実現できるという取組に今後も力を入れていただきたい。</p> <p>(5) 特別活動</p> <p>○「宇和高校で部活動をしたい」と答える生徒が増えている。宇和高校は生徒数がそれほど多くない中で充実した取組が展開できている。一方、バレーボール、バスケットボール、ソフトボールなど、中学時代にやっていた部活動が宇和高校に存在しないと生徒の入学にはつながらない。これらの部活動を設置することで入学者の増加につながる可能性はあると思う。体制の工夫等により実現を目指して検討いただきたい。</p> <p>○体育祭や学園祭などもそれなりに頑張っていると思うが、生徒のアンケート結果によると学年進行でもう少し手応えを感じる結果がほしいと感じる。地域との連携、保護者を巻き込んだ取組など、生徒の主体性や社会性を養う活動にも今後は注目していきたい。</p> <p>○学校の活性化のためには部活動の充実が必要不可欠であるが、教員の業務改善も課題である。外部指導者の活用などを検討し、充実した体制となるよう工夫して取り組んでほしい。</p> <p>○農業クラブの活動等に関連して、愛媛県等が主催するスマート農業、DX、有機農業の会議等に、生物工学科の生徒が参加しやすい学習環境づくりに努めていただきたい。</p> <p>(6) 業務改善</p> <p>○教員の職務も多岐にわたり、生徒のみならず学校全体が多様化する時代に対応していくのは大変だと思うが、これまでのやり方が通用しない変化の激しい現場で、柔軟に取り組める教員の底力に期待したい。</p> <p>2 重点努力目標について</p> <p>○「主体性」や「思いやり」を育成する目標は巷にあふれている。宇和高校ならではのアプローチは「心を耕す」の一言に集約されていると日々感じている。人は「言葉」を使って思考する生き物である以上、人の心を耕すためにも、教師から生徒への「言葉」による「声掛け」を大切にしていきたい。</p> <p>○重点努力目標と諸活動の関連性をより分かりやすく「デザイン」にまとめ、教職員、生徒、保護者が共有することで学校全体の指向性が明確になり、各活動の評価・反省もより明確に効果的なものになると考える。</p> <p>○スクール・ポリシーについて、普通科と生物工学科に違いを出すべきではないか。農業科の目標には、循環型社会の構築や環境や生命の維持・保全など、生物工学科ならではの内容を追記する必要があるように思う。</p>	<p>○確かにコロナの影響による皆勤率の低下を感じている。悩みのアンケートや面談を通じて、今後も生徒の変化に注視したい。</p> <p>○社会で通用する生徒の育成が、高校の重要な役割の一つであるとの認識のもと、学校として指導すべき事柄については、しっかりと指導していきたい。</p> <p>○昨年度に引き続き、宇和中学校での説明会において、国公立大学合格者と公務員採用内定者の3年生が語り、年内入試及び就職試験の結果を早期に本校ホームページに掲載した。今後は、宇和中学校には複数回、宇和中学校以外の近隣の中学校にも訪問させていただき、本校の魅力を直接伝える機会を設けたい。</p> <p>○今後もより一層、地域活動への積極的参加を促すと共に、外部機関等との連携を密にしながら、生徒が満足する就職ができるように支援していきたい。</p> <p>○習熟度別講座や個別指導を充実させると共に、全教職員が全校生徒に関わる「面倒見の良い宇和高校」を今後も大切にしたい。</p> <p>○令和5年度に「県立学校における部活動改革」の方向性が示され、令和6年度からは学校の魅力を推進する部活動を「魅Can部」に指定するなどの事業の実施が決まっている。今後は改革の方向性である「合同部活動」「拠点校部活動」「総合型部活動」などの活動形態を模索しながら、生徒や保護者のニーズと地域の協力体制を考慮しつつ改革を図っていきたい。</p> <p>○コロナ禍では活動を自粛していたので、今後は地域や保護者との連携し、活動の活性化に取り組んでいきたい。また、浸透しつつある学校魅力化プロジェクトの発信により本校のPR活動にも繋げていきたい。</p> <p>○部活動を充実・活性化させることは宇和高校の重要施策の一つである。限られた人員のなかで生徒のニーズを最大限反映するため、部活動の精選を図るとともに、外部指導者についても積極的な活用を検討したい。</p> <p>○本年度も可能な限り参加した。来年度についても学校行事や査査等、校内の学習活動に影響がない限り参加したいと考えている。</p> <p>○宇和高校は今まさに変革の真っただ中にあり、学科改編に向けた業務等が付加されている状況にある。宇和高校で学ぶ生徒に充実した学びを提供するために、教職員一丸となって取り組みたい。</p> <p>○教育理念の「大地と共に心を耕せ」が、これからも宇和高校の羅針盤だと考えている。この理念を「自然・環境から人づくり」と捉え、西予市の自然豊かな環境の下で学ぶ生徒へのメッセージとして伝え続けていきたい。</p> <p>○スクール・ポリシーや重点努力目標を体系的にまとめたグランドデザインの構築を行い、内外に宇和高校の目指す方向性を示したい。</p> <p>○総合学科のスクール・ポリシーを検討中である。令和8年度からの新しい宇和高校の姿を示すために、農業に関する系列のある総合学科らしいスクール・ポリシーを策定したい。</p>